

事業名称	プレーパーク事業		
団体名 (構成人数)	太田山プレーパーク(3名)	代表者	小磯 恵理子
事業の内容	・ プレーパークの開催 毎週金曜日15:30~17:00 毎月第2土曜日10:00~16:00 ・ 太田山プレーパークの夏祭り開催 ・ 外部講師を招いての市民参加イベントの開催 ・ きのご観察会 ・ 自然観察会 ・ ロープネット遊び ・ 市内他団体と連携を図り、プレーパーク、太田山公園の魅力を伝える		
審査基準： 「公益性・実現性」			
事業の必要性と 目的	1. 遊び場の不足 核家族や共働きの増加、一人っ子等、さまざまな環境により、放課後や休日に外で遊ぶ機会が無かったり、子ども達の居場所が無い状況がある。 家でゲームをして、1日外遊びをせず、過ごす子どもが増えている。 →ここに行けば誰かがいる！と言う安心感を与え、信頼できる地域の大人との交流の場の提供が必要。単発の開催ではなく、定期的に継続して行く事が最も重要。 2. 異年齢同士のコミュニケーション不足 家族や学校以外の人との交流が少ない。安心できる遊び場の減少により、異年齢との交流の場が無い。 →遊びを通じて様々な考え、立場、環境の人がいる事を知る機会を与えたい。年配者への尊敬、年下への優しさ等、当たり前な気持ちを自然と身に着ける環境を地域の大人が提供する必要がある。 3. 経験不足による思考力の低下 本来遊びから得られる様々な感覚を学ぶ機会が無く、自分で考えて行動する事ができない。遊具等、ルールのある物がないと遊び方がわからない子どもが増えている。 →自然の中で自ら遊びを作り出し、極力禁止事項をなくした環境＝プレーパークが必要。大人は大きな事故が起きないように見守り、遊びのきっかけを作るだけであることが大切。しかし、ただ野放しにするのではなく、必要な時に相談が出来る大人のいる環境を与える必要がある。 4. 公園の魅力不足・整備不足 公園に人がいない。遊具が撤去されていて子ども達は何をしてよいかわからない。 →自然があるからこそ出来る遊び場がプレーパーク。 そこにある木にロープを掛け、ブランコやハンモック遊び。水遊び。落ち葉集めや昆虫採集。ただ寝転ぶだけ…太田山公園は自分で遊びを作り出すことができる自然の宝庫である。遊びのきっかけを作り、定期開催する事で子ども達に安心感を与え、遊びを通じて生きる力を育むことが出来る。 そのままの公園の姿でその公園の持つ本来の魅力を提案する事が出来る。 5. 災害時の備えの不足 備蓄など、お金で備える事の出来る物の準備は各自行っているが、火起こしや炊き出しなどの経験からでしか得られない技術が不足している。 近年のオール電化の普及により、火を扱う事が少なくなり、子育て世代でも火起こしの経験がない人が増えている。 →第2土曜日は火起こしから親子で行い、カレーなどの調理を行う。遊びの中（日常）から災害時に役立つ技術を身に着ける。		
審査基準： 「公益性」			

事業名称	プレーパーク事業		
団体名 (構成人数)	太田山プレーパーク(3名)	代表者	小磯 恵理子
スケジュール	・ プレーパーク事業の開催 毎週金曜日15:30～17:00 毎月第2土曜日10:00～16:00 ・ ロープを使ったブランコや、ハンモックの設置 ・ 廃材等を使った工作コーナーの設置 ・ 駒などの昔遊びコーナーの設置 ・ シャボン玉の設置 ・ その他、季節や状況に応じた遊びのきっかけ作り ・ 外部講師を招いての市民参加イベントの開催 ・ 令和6年度は防災により力を入れた活動を目指す。 遊びの中から自然と火の取り扱いやロープワークの技術などを取得する機会を与える。 防災パンチの作成を計画し、災害時に備えると共に、防災の意識を高める機会を与える。 ・ 他団体との連携		
審査基準： 「実現性」			
事業の特色	自分の責任で自由に遊ぶをモットーに、自然そのものを使った遊びを提案する。日常の中出来にくくなった大胆な遊びを通じて子どもの自主性や、生きる力を育みます。赤ちゃんから年配者まで、誰もが自分を出せる環境作りを提案し、地域活性化、異年齢同士の交流の場を提供します。 遊びの中心は子どもであり、大人は大きな事故を防ぐ見守りや相談相手となります。「静かにしなさい」「迷惑をかけちゃいけません」はありません。 極力禁止事項を無くすことで子育て中の保護者の持つ「思いっきり遊ばせたい」の気持ちにこたえる事が出来るのがプレーパークです。		
審査基準： 「独創性」			
来年度以降の事業展開予定	毎週金曜日、第2土曜日の定期開催を継続する。		
審査基準： 「発展性・自立性」			
過去の活動実績	令和5年度活動実績 毎週金曜日15:00～17:00 毎月第2土曜日10:00～16:00 太田山プレーパークの夏祭り8月19日10:00～15:00 年間参加延べ人数(2月6日現在)→1,372名 外部講師を招いての活動 ・ きのご観察会 ・ ロープネット遊び ・ 自然観察会		

事業名称	プレーパーク事業		
団体名 (構成人数)	太田山プレーパーク(3名)	代表者	小磯 恵理子

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり活動支援金	500,000		備品購入費	270,000	物置
イオン黄色いレシートキャンペーン	20,000		原材料費	100,000	防災ベンチ材料費
夏祭り収益	30,000		消耗品費	230,000	遊び道具、木工道具、文房具、雑貨
クラウドファンディング	90,000		報償費	100,000	外部講師謝礼 ・きのこ観察会5,000円 ・自然観察会5,000円 ・ロープネット遊び5,000円 ・防災ベンチ作成5,000円×12回 ボランティア飲料水
自己資金	110,000				
			印刷製本費	15,000	ポスター、チラシ、名刺
			使用料・貸借料	35,000	遊具貸借料
合計	750,000		合計	750,000	

事業名称	富士見通りを中心とした賑わいを創出するウォーカブル事業		
団体名 (構成人数)	おらほ木更津みなと口(14名)	代表者	中村 悌己
事業の内容	・まち歩き事業 「切られ与三郎」をテーマにしたまち歩きイベントの実施 世代ごとに興味を持てるまち歩きイベントの実施 → [2～3ヶ月に1回、計4回] 木更津の歴史文化を知る学び合いワークショップの実施 → [年2回] 商店街の店主に焦点を当てたお店紹介マップやまち歩きマップの作成 ・通りを活用した賑わい創出事業 富士見通りの空き店舗前で虫食いの出店するソーシャルマルシェイベントの開催 → [週1を3ヶ月間] 中心市街地の店舗やこども食堂等と連携したイベントの開催 → [年に2回（初夏、クリスマス時期を予定）] ・木更津の魅力発信事業 中心市街地外の魅力ある店舗を集める銘品マルシェイベント → [年2回] シャッターアートによる遊休不動産を利用したまちの魅力発信 → [3ヶ月間] 「切られ与三郎」をモチーフとしたグッズ販売		
審査基準： 「公益性・実現性」			

事業名称	富士見通りを中心とした賑わいを創出するウォーカブル事業		
団体名 (構成人数)	おらほ木更津みなと口(14名)	代表者	中村 悌己
事業の必要性と 目的	【事業の必要性】 木更津市の人口は平成元年から令和5年度までに増加の傾向が見られる（住民基本台帳より）。しかし、市中心部は衰退が進み都市の空洞化、スポンジ化が深刻化している。中心市街地に居住する人口は平成元年から平成31年までを比較すると減少傾向にあることがわかる（木更津中心市街地活性化基本計画-概要版-より）。中心市街地の人口の減少により、富士見通りを中心としたみなと口エリアの商店街はシャッター通りと化し、ますます活力が衰退している。この理由として、居住する方々の高齢化や商業施設の郊外への出店による中心市街地の利便性の低下の二点が考えられる。みなと口エリアの商店街は居住区と店舗区が一体となった昔ながらの建物が多い。そのため、シャッターを閉めていた場合でも居住区で生活する人がおり、利用していない店舗区を簡単に貸せない状況にあたりすることも多い。また、富士見通り沿いの中心市街地の歩行者通行量は、木更津そごうがオープンした昭和63年当時では1日当たり（12時間計測）約7万人もの人が行き交うエリアであったが、。大規模商業施設の撤退にともない歩行者通行量は激減し、令和元年では約1万人となっている（木更津中心市街地活性化基本計画-概要版-より）。 平成30年に行われた中心市街地に関する市民アンケートでは、来訪頻度は低く、滞在時間は短いという結果がある（木更津中心市街地活性化基本計画-概要版-より）。これは、市民全体として中心市街地への関心が薄くなっていることが言えると思われる。こうした状況で、市民主体となったボトムアップ型の中心市街地を盛り上げようとする試みを行うことで、市民目線の地域資源の再発見やコンテンツ化を進め、満足度の高いプレイスメイキングを実施することができると考える。また、プレイスメイキングを進める中で、自身たちの活動で得られたコトやモノを市民全体に再提案していくことによって、で更に他の市民の中心市街地への関心を高められる効果があると考え。今後、富士見通りの再整備が予定されており、ハード面の更新がなされる。それに伴い、富士見通りを活用する団体やコミュニティといったソフト面の補強も視野に入れるべきであろうと考え実施するものである。 【事業の目的】 本事業の目的は、まち歩きに焦点を当てた中心市街地の活性化につながる事業の模索を行い、市民の中心市街地への関心を集めることである。また、中心市街地を日常のふとした瞬間に「歩きに出よう」と思えるウォーカブルなエリアにすることである。		

審査基準：
「公益性」

事業名称	富士見通りを中心とした賑わいを創出するウォークブル事業		
団体名 (構成人数)	おらほ木更津みなと口(14名)	代表者	中村 悌己
スケジュール	令和6年 5月 まち歩きイベント 6月 木更津の歴史文化を知る学び合いワークショップ、遊休不動産を利用したまちの魅力発信（シャッターアート展示） 7月 まち歩きイベント、(地域の店舗や子ども食堂との連携を含めた) マルシェ・キッチンカーイベント、遊休不動産を利用したまちの魅力発信（シャッターアート展示） 8月 まち歩きマップの配布、遊休不動産を利用したまちの魅力発信（シャッターアート展示） 9月 富士見通りの空き店舗前で虫食いの的に出店するソーシャルマルシェイベント、中心市街地外の魅力ある店舗を集める銘品イベント 10月 まち歩きイベント、富士見通りの空き店舗前で虫食いの的に出店するソーシャルマルシェイベント 11月 富士見通りの空き店舗前で虫食いの的に出店するソーシャルマルシェイベント 12月 地域の店舗や子ども食堂との連携を含めた) マルシェ・キッチンカーイベント 令和7年 2月 木更津の歴史文化を知る学び合いワークショップ 3月 まち歩きイベント、中心市街地外の魅力ある店舗を集める銘品イベント		
事業の特色	おらほ木更津みなと口は、一般社団法人まちづくり木更津が開催した「中心市街地のまちづくり勉強会」、「中心市街地のまちづくり意見交換会」を経て、中心市街地に愛着を持って活性化に尽力する幅広い年代の人が有志で参画する団体である。そのため市民の目線で中心市街地を捉えることができ、歴史や店舗、空き店舗、催される予定のイベント、既存のコミュニティーなど、今ある地域資源を自分たちの手でまち歩きやマルシェ、こども食堂、アートなどの多面的かつ多様な手段を用いてにぎわいを創出することが可能となる。 事業に関わる人をイベントの参加者だけとするのではなく、みなと口の商店街の店主や空き店舗のオーナー、木更津市周辺で活躍するクリエイターなどを巻き込みながら事業を協同する協働することで、中心市街地で活躍するコミュニティーの形成を図る。コミュニティーの形成を行うことで中心市街地を活性化する人材の育成を同時に行い、持続的なまちづくりがなされるようにする。		
来年度以降の事業展開予定	定期的かつ継続的なまち歩きイベント、マルシェイベントの開催を行う。地域資源を活用してテーマやコンテンツを変えながら今の木更津に合う魅力ある内容に磨きあげる。 通りを活用した賑わい創出事業を経て、みなと口エリアの空き店舗にチャレンジショップを展開できる仕組みや新規店舗が進出しやすいサポート体制を整備する。 三つの主たる事業を通して木更津の中心市街地に興味・関心を持つ人を集め、主体的にまちづくりに関わるコミュニティーの形成を図る。		

事業名称	富士見通りを中心とした賑わいを創出するウォーカブル事業		
団体名 (構成人数)	おらほ木更津みなと口(14名)	代表者	中村 悌己
過去の活動実績	木更津みなと口おさんぽDAY～昭和にタイムスリップ！？～ 2023年4月29日（昭和の日）開催 (1)木更津の歴史謎解きツアー「木更津トリビア」 ・みなと口の通りを歩きながら、その通りにちなんだ歴史の謎を解くまち歩きイベント (2)たべあるきマルシェ ・成就寺駐車場での飲食販売、ワークショッップ、物販 (3)木更津映えスポット ・旧ゆらんにて着物着付体験 ・旧人参湯にて懐かしい昭和レトロ品の展示 (4)空き店舗DEワークショッップ ・世界に一つだけのウッドチャームづくり 木更津駅・階段アート 歌舞伎の人気演目であり木更津も舞台として登場する「与話情浮名横櫛（よわなさけうきなのよこぐし）」〔通称：切られ与三〕を題材とした作品を一般社団法人まちづくり木更津と協働で制作しました。 2023年10月から11月まで開催展示 木更津中心市街地文化財巡りまち歩き 「太田山公園・恋の森をきれいにする会」との共催で、まち歩きを実施。 ガイドの方を説明を聞きながら、木更津の貴重な歴史や文化財を学ぶ。 コース：八剱八幡神社～敵島神社～成就寺～證誠寺～見染めの松～木更津甚句記念碑～鳥居崎海浜公園（昼食）～金毘羅様～北海岸の跡記念碑～木更津ばやし発祥の地～東岸寺～選擇寺～愛染院～光明寺（約4km） 2023年10月28日開催 木更津の魅力再発見ツアー「与三郎編」 木更津のみなとエリアを中心としたまち歩きツアー ツアーガイドが付き、「へえ～」「そうだったの！？」というような、まちの小話を聴きながら散策をしました。 2023年11月3日（文化市民の日）開催 人形劇「与三郎恋物語」上映とフォーラム 木更津の『与三郎とお富』それに『蝙蝠安（こうもりやす）』 かつて彼らはこのまちでいきた・・・『切られ与三郎』の話をしよう！ 2024年2月7日開催 場所：鳥居崎海浜公園内「海に夕陽沈むレストラン舵輪」		

事業名称	富士見通りを中心とした賑わいを創出するウォークابل事業		
団体名 (構成人数)	おらほ木更津みなと口(14名)	代表者	中村 悌己

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり活動支援金	404,000		報償費	150,000	ワークショップ講師：15,000円×2回 イラストレーター：120,000円
会費	42,000	年間3,000円/人	委託費	60,000	グッズ作成
イベント参加料	24,000	参加料：500円×12人×4回開催	消耗品費	48,000	事務用品
出店料	64,000	通りマルシェ：2,000円×12店舗 銘品マルシェ：2,000円×10店舗×2回開催	備品購入費	48,000	タープテント：12,000×4個
物販	60,000	イベントグッズ：300円×200個	印刷製本費	150,000	マップ(1000部)：30,000円 チラシ(1000部)：5,000円×8イベント グッズ印刷(200枚)：10,000円 アート用大判印刷：70,000円
広告料	12,000	マップ作成：500円×24店舗	使用料・賃借料	100,000	出店エリア使用料：35,000円×2イベント 道路使用許可(複数回)：30,000円
			保険料	50,000	イベント保険
合計	606,000		合計	606,000	

事業名称	里山農業体験塾		
団体名 (構成人数)	里山農業体験塾(16名)	代表者	波多野 孝雄
事業の内容	農業や農村を取り巻く環境は厳しく、特に中山間地は小規模であり後継者や担い手不足で 魅力ある 儲かる農業とは、言えません。 増える一方の、耕作放棄地を活用して交流の場とします。 そこでは、露地野菜の栽培等を通し農業体験して貰い、里山の魅力・楽しさを発信します。地域の魅力度アップを目指します。 市民農園のように区画地を貸与して終わりではなく、貸し手、借り手、お客の立場から、よりよい方法を研究して観光農園の様々な形態を、提案して地域の活性化に取り組みます。 審査基準： 「公益性・実現性」 1. 収穫方法や参加費の検討 (観光農園のシステムの構築) 2. 管理作業の省力化 (除草、農薬等) 3. 楽しい農業作業の研究 (機械化・料理の研究・講習会) 4. 会員制導入の検討 (働き方改革・法人会員を募集) 5. 不耕作地・空き家の紹介 (市担当課と連携)		
事業の必要性と 目的	少子高齢化の進展で地域の過疎が進み、地域の活力が消失しています。 自然豊かな地域の魅力を感じてもらえ、定住者が増える契機となるような農業・農村体験を企画運営し、農地の流動化に寄与いたします。 地元農家の情報交換の場とします。 ホームページやマスコミをフルに活用して、里山農業体験塾の「観光農園」をPRし 一步一步着実に交流人口の増をめざします。 昨年に引き続き道の駅、ブルーベリー協議会、JA木更津、観光協会と連携し活動します。 審査基準： 「公益性」		
スケジュール	3, 4, 5月 協力農家の確保 【耕作地 農機具の確保 指導者の確保】 事務所、納屋、作業場の決定、看板製作、栽培計画 収穫祭の企画 6月、 ・梅の収穫と(ジュース・梅干)加工 ・孟宗竹・真竹の有効活用を(シナチク)等に加工 ◎ジャガイモ栽培 3アール 親芋30k 耕うん 植え付け(3月上) 土寄せ(4月中) 収穫(6月中) ◎カボチャ 4アール 苗100本 耕うん 元肥20k 堆肥 マルチ 定植 収穫(9・10月) ◎サツマイモ 3アール 耕うん 定植 収穫 (10・11月) 審査基準： 「実現性」		

事業名称	里山農業体験塾		
団体名 (構成人数)	里山農業体験塾(16名)	代表者	波多野 孝雄
事業の特色	木更津の東部の丘陵地で、新しい観光農園のシステムを提案していきます ◎オーガニック農業を、探求してみます。 ◎収穫祭を交流の場として位置づけ料理方法の研究・発表もします。 ◎農作業もすべてを、交流の機会と大切に位置づけます。 道の駅等で品評会、即売会などを企画開催します。 インターネットで、生育状況を発信します。		
審査基準： 「独創性」			
来年度以降の 事業展開予定	不耕作地・空き家の活用を検討します。 サツマイモ等の6次産業化をさらにおしすすめます。・・・焼き芋の他 公民館、JA, ブルーベリー等の関係団体とのネットワークを構築します。		
審査基準： 「発展性・自立性」			
過去の活動実績	ふるさとの秋を楽しむ会 梅の加工の料理教室 城山たけのこ祭りの参加 道の駅 開店記念祭に連続参加 過去に木更津茶華道協会と地域の共催 富来田公民館に圃場を提供（昨年も共済） それぞれの団体で参加 公民館文化祭に出店参加		

事業名称	里山農業体験塾		
団体名 (構成人数)	里山農業体験塾(16名)	代表者	波多野 孝雄

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり活動支援金	500,000		報償費	100,000	謝礼
会費	170,000		旅費	140,000	交通費
参加費	30,000		消耗品費	60,000	事務用品
寄付金	100,000		燃料費	100,000	草刈り機、トラクター
			通信運搬費	50,000	ポスター、はがき
			使用料	200,000	畑、山、休憩所、農機具
			原材料費	150,000	肥料、種、苗、マルチ等
合計	800,000		合計	800,000	

事業名称	福祉、教育及び青少年育成を目的としたアンサンブル演奏活動		
団体名 (構成人数)	木更津シニアアンサンブル「アクア」(24名)	代表者	津田 望
事業の内容	①障がい児・者施設での慰問演奏 ②高齢者施設での慰問演奏 ③児童養護施設でのお楽しみ演奏会 ④小中学校での教育を目的とした演奏会 ⑤定期演奏会の開催		
審査基準： 「公益性・実現性」			
事業の必要性と 目的	私たちは平均年齢ほぼ70才のシニアのアンサンブルです。構成楽器は、バイオリン、フルート、クラリネット、トラペット、サクソやピアノ、ドラムスなど幅広く、演奏曲目はクラシックから歌謡曲、童謡、唱歌などです。演奏プログラムは、演奏場所や対象者、対象年齢などで内容を変化させています。 メンバーはほとんど仕事をリタイアしており、孤立化しやすい状況にあります。そこで高齢になってから始めた楽器、また若い時に演奏していた楽器を持ちより、月3回の練習に参加することにより、外出の機会を得ることで、心身の健康維持や認知症の予防等を目的としています。その中で、メンバー同士の友好を深め、社会的孤立から脱却すると同時に、発表演奏会を開催したり、慰問演奏をすることにより多くの方々に喜んでいただい、演奏者にとっても生きがいとなるような双方向の支援企画・計画を目標としています。 ①障がい児・者施設 多くの障害をもつ子どもや成人は、歌やダンスが好きで音楽をよく聴いている。しかし障がいのある子どもや成人は、コンサートを集中して最後まで聴けず、多動になり離席をすることも多々あり、一般の聴衆の中では多くの困難を伴う。また喜びのためでもあるが大声を出すこともあり、途中で退場を指示されたり事前に入場を断られることも多々ある。 また最近のホールはバリアフリーになっているところも多いが、肢体不自由があり歩行困難がある場合、段差が難しい人がまず座席まで到着することも困難な会場も少なくない。車いすの方々では、通常のコンサートホールでは座席自体車椅子対応もされていない場合もあり、劇場構造というハードの面でも彼らにとって多くの難しさ抱えることが多い。 またその保護者に目を向けても、障がいの子どもの連れてのコンサートは「子どもが騒ぎ集中して音楽が聴けない」「出ていくように言われた」などのコメントをよく聞き、コンサートホールや劇場へ行くことそのものを諦めている人も少なくない。多くの障がいの子の保護者は、音楽を楽しむ権利すら放棄せざるを得ない。そのようなことから、実際にその子どもや通園（所）している施設へ出向き、障がいの子も達ばかりでなく、保護者やそのきょうだい、またその家族にも一緒に楽しんでもらえるように、レパートリーも子どもから大人まで楽しめるような演奏会開催の企画をする。 ②高齢者施設での慰問演奏 昨今高齢者への音楽は多用されており、特に広い意味での音楽療法の、ADL向上や認知機能の改善にと、多領域において有効性が高いとのエビデンスが多く出されている。高齢者施設では、日常動作指導に音楽を取り入れながらの指導の方が、掛け声だけで行うリハビリより数段効果が高いと言われる。また静かに音楽を傾聴することにより精神的安定性を取り戻し、認知症の予防や治療にも有効であるとも言われている。通常はCDが良く使われるが、生の楽器演奏の方が数段効果が高いことは実証されている。 しかし高齢者の場合も障がいの人たちと同様に、音楽を聴きにホールへ出かけていくことの困難はさらに顕著である。抱える疾病や感染症への配慮や、歩行が難しい高齢者の外出そのものに危険性が高く、リスク管理のための事前準備に膨大な時間が必要となる。かかる人的問題等々を考えると、現行の施設入所の高齢者が音楽を聴きに外出することはなかなかできない。特にコロナ禍では更に多くのセラピーや活動自体も自粛され、音楽活動もなく閉ざされた高齢施設の認知症発症率も上がったと言われる。できるだけ早期に、施設へ出向いての慰問演奏の企画を実行したい。高齢者の好きな歌謡曲や昔の流行歌などを広くレパートリーに取り入れ、音楽を聴き一緒に歌えるコンサートを企画する。		

事業名称	福祉、教育及び青少年育成を目的としたアンサンブル演奏活動		
団体名 (構成人数)	木更津シニアアンサンブル「アクア」(24名)	代表者	津田 望
審査基準： 「公益性」	③児童養護施設でのお楽しみ演奏会 近年、家族間の問題や劣悪な環境の生活改善が難しい家族から子どもが一時的または永続的に離され、児童養護施設へ入所する児童が急増している。施設内では多くの子どもたちは、個室やプライバシーが保てない大集団で生活していることが多い。そのため個人の気分転換やレクリエーションも難しい状況下、施設内で子ども達はぎくしゃくした人間関係やコミュニケーションを構築してしまい、精神スタビリティが保てない、恒常的に不安定な精神症状などの問題を持ちやすいという症例が挙げられている。 施設のような大集団の生活では、通常多くの若者がするように、気分転換に自由に音楽を聴いた入り、コンサートに外出をすることや好きな音楽に合わせて歌ったり踊ったりすることができにくい環境下の長い生活が与儀なくされているからである。 そのような施設に出向いて行き、みんなで楽しめるような楽曲を多くレパートリーに取り入れ、演奏を聴いたり歌ったりダンスができるような明るいコンサートを開催し、生の音楽に身近に触れ、一緒に楽しめるコンサート開催の企画をする。 ④小中学校での教育を目的とした演奏会 最近の小中学校の音楽では、教室で教師自らピアノを弾いて伴奏をしたり、音楽を鑑賞させることをあまりされないという現実があるようである。実際音楽鑑賞の時間であってもCDで行うことが通常であり、生の楽器に触れる機会も生の音楽を聴く機会も少ないと聞く。 CDで聴く音楽は、実際の演奏の音楽とは根底から異なるものであり、本当の音楽の感動は、人が演奏する生の楽器が奏でる音楽によるものである、という体験をしている児童生徒が少ない。 学校への慰問演奏をすることで、CDと生音の違いを知っていただき、幼少の大切な時期に生の音の素晴らしさを実感・体験してもらいたい。同時に、それぞれの楽器の音の違いやその特性を知り、実際に楽器に触ってもらうなど、将来さらに音楽に興味を持ってもらえるような企画をする ⑤定期演奏会の開催 これまで述べてきた慰問演奏の企画は、限られた方々への演奏である。しかし私たちは、この地域に根差し、広くこの地域の方々のために、練習し鍛錬してきた曲を発表する機会を企画したい。 毎年1回総結集の演奏を定期演奏会として開催し、地域の老若男女どなたにでも聴いていただけることは、私たちにとっての大きな励みになる。同時に、このような活動を平均年齢70歳以上のシニアが行っていることを、地域の方々に広く知っていただき、シニアの誰でも参加し一緒に音楽を楽しめる場所があることを知っていただきたい。そして演奏のニーズがあれば、どこへでもこちらから出向いて行きコンサートを開催し、さらにこのシニアの繋がりを音楽を通して作り上げ、楽しい老後を実現できることを知っていただきたい。また私たちにとっても、地域に音楽を身近に聴きたい方々の要望を知ることでもできる、有効な機会となるための定期演奏会を企画する。		
スケジュール 審査基準： 「実現性」	・ 6月中旬：障がい者施設 ・ 7月初旬：小学校（特別支援学級） ・ 11月：高齢者施設 ・ 12月11日：障がい児施設 ・ 12月13日：障害者施設 ・ 1月：養護施設 ・ 2月：第2回定期コンサート		

事業名称	福祉、教育及び青少年育成を目的としたアンサンブル演奏活動		
団体名 (構成人数)	木更津シニアアンサンブル「アクア」(24名)	代表者	津田 望
事業の特色	高齢者がアンサンブルをすることにより・・ ・社会的孤立化を防ぐ ・音楽を通してコミュニケーションを深める ・楽器演奏や楽譜を読むことによる認知症の予防 ・音楽による心身の癒し効果 ・練習のために外出することによる健康維持 ・社会的繋がりを得ることで、友好関係を広げ互助の豊かさを知る 慰問演奏をすることによって・・ ・演奏を喜んでいただけることで、生きがいになる ・これまで知らなかった環境にある子どもや人々に出会う ・演奏を通じて自己有用感をもつ		
審査基準： 「独創性」			
来年度以降の 事業展開予定	地域の新たな慰問演奏先を発掘し、市内の出来るだけ多くの福祉施設や病院などにアプローチする。今後は、入場料を頂く、また賛助会員を募るなどして活動資金を得ていく予定である。		
審査基準： 「発展性・自立性」			
過去の活動実績	2023年度 2月1日 : 発足式 5月13日 : 千葉県シニアアンサンブル連盟主催、 千葉ブロックコンサート出演 10月28日29日: 西清川公民館文化祭参加 12月15日: 障がい者施設慰問演奏(馬來田-のぞみワークショップ) 2月11日: 1周年記念コンサート開催(予定) 3月18日: 小学校演奏会(真船小学校-予定)		

事業名称	福祉、教育及び青少年育成を目的としたアンサンブル演奏活動		
団体名 (構成人数)	木更津シニアアンサンブル「アクア」(24名)	代表者	津田 望

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		報償費	330,000	指揮者謝礼10,000 円×33回
自己資金	255,000		旅費	165,000	指揮者交通費5,000 円×33回
			委託費	225,000	編曲代15,000円× 15曲
			印刷製本費	20,000	チラシ500部 ポスター30部
			通信運搬費	10,000	チラシ等郵送代(切 手、封筒)
			消耗品費	5,000	ペン、マジック、 テープ等
合計	755,000		合計	755,000	

事業名称	ノ木ノ家		
団体名 (構成人数)	木ノ家実行委員会(4名)	代表者	堀切 辰也
事業の内容	こどもビジネススクール「ノ木ノ家」の運営をします。 ※小学校4年～6年生クラス、中学～高校クラスの2クラス 模擬店の出店において、こども自身が主体的に考え、話し合い、いちから商品企画、製造、資金調達、販売、会計、決算発表をするフィールドワークを行います。 そのフィールドワークの経験やワークショップで行う、仕事・サービスの社会見学、REASAS（地域経済分析システム）を活用したマーケティング、課題の抽出学習を通じて身に付けた知識、経験を活かしてこども自身が市内で行う実際のビジネスの事業計画を作成し発表します。 ※ノ木ノ家では出資、融資は行わずビジネススクールの運営のみ行います。 ※こどもからは参加費、市内企業からはオブザーバー参加費を徴収します。		
事業の必要性と目的	こどもを取り巻く環境、社会では家庭、学校以外の第3の居場所、活躍の場所の必要性、スマートフォン、ゲーム、デジタルデバイスの普及による引きこもり、孤立、こどもの貧困、マニュアルがないと動けない指示待ち人間などがメディア記事を賑わす昨今、こどもがビジネス体験を通じて社会とつながり、主体的に考え自分を表現し自己実現し結果を求めていく経験が必要だと考えます。その経験、知恵が社会にでて活躍し生き抜く力を身に付ける一助となることを期待します。 よって、こどもの健全育成、及び木更津市の活性を目的と致します。		
スケジュール	2024年度 ・広報（チラシ配布、掲示SNS）を行う ・ノ木ノ家ワークショップを6回開催 ・フィールドワーク模擬店の出店を2回行う ・毎回終了後、振り返りを行うほか、適時、スタッフ会議を実施 ・他団体、講師との連携 【スケジュール】 2024年 4月 スタッフミーティング 5月 環境整備及び、広報 6月 第1回ワークショップ（模擬店に向けて） 7月 第2回ワークショップ（模擬店に向けて） 8月 フィールドワーク（夏祭り出店）及び振り返り 9月 第3回ワークショップ（模擬店に向けて） 10月 第4回ワークショップ（模擬店に向けて） 11月 フィールドワーク（木更津こどもまつり）及び振り返り 12月 スタッフミーティング 2024年 1月 第5回ワークショップ（事業計画作成） 2月 第6回ワークショップ（事業計画発表） 3月 スタッフミーティング ※フィールドワーク実施時には社会福祉協議会ボランティア活動行事保険等に参加します。		

事業名称	ノ木ノ家		
団体名 (構成人数)	木ノ家実行委員会(4名)	代表者	堀切 辰也
事業の特色	・こどもが学校やサラリーマン家庭で不足しがちなファイナンスリテラシーにふれることができます。 ・こどもが社会で生き抜く力のひとつである「稼ぐ力」＝「他人の感謝」の思考が身に付きます。 ・稼いだお金をどう使うかまでもこども自身で考える（一部を福祉に） ・小学生だけでなく、支援の谷間と言われている中学生や高校生の市内での居場所、活躍のひとつとなる。 ・この事業はこどもの社会進出をきっかけとし市内での産業の創出、様々な地域の人をつなげ、みんなでまちをつくっていく力も秘めています。		
審査基準： 「独創性」			
来年度以降の 事業展開予定	・継続してノ木ノ家ビジネススクールを開催します。 ・今年度、こどもが発表した事業計画の実行を支援していきます。 ・市内の経済団体との連携を図ります。 ・自治会、子ども関連の他団体とも情報交換、連携し地域一体となって活動の拡大を目指します。 ・運営スタッフのスキルアップを目指し、学習会・講演会などの開催や参加を行います。		
審査基準： 「発展性・自立性」			
過去の活動実績	新規事業のため無し ただし実行委員メンバーの活動実績として 中学高校教員免許保持者・児童養護施設元施設長・こども食堂代表・青少年相談員メンバーで活動を行っていきます。		

令和6年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 5

事業名称	ノ木ノ家			
団体名 (構成人数)	木ノ家実行委員会(4名)	代表者	堀切 辰也	

収支予算書

収入項目	金額(円)	備考	支出項目	金額(円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		消耗品費	80,000	事務用品
賛助会費	30,000	3000円×10人	備品購入費	100,000	発電機
参加費	150,000	こども:1,000円 ×10人×6回 市内企業:5,000 円×3社×6回	燃料費	50,000	発電機、移動車
模擬店収益	102,800		広告費	50,000	広報誌掲載
			保険料	2,800	100人×28
			印刷製本費	80,000	募集チラシ等
			委託費	200,000	ホームページ作 成、管理費
			報償費	120,000	講師謝礼20,000円 ×6回
			旅費	100,000	社会見学バス
合計	782,800		合計	782,800	

事業名称	コミュニティカフェによる人と人の居場所づくり事業 ～子ども食堂や高齢者の食とコミュニケーション～		
団体名 (構成人数)	NP0法人里のめぐみ(10名)	代表者	金井 珠美
事業の内容	・大久保地区の民家を利用してコミュニティカフェを実施する。対象は近隣住民を中心とした木更津市民。 ・利用者に講習会や講演会、うたカフェ、ワークショップなどを主催し、新しいコミュニティや居場所を提供する。 ・同コミュニティカフェで月に1回、子ども食堂を開催し、大人も子供も参加でき、みんなで楽しく過ごせる居場所の提供。 ・食を通じて、いつでも立ち寄り、居心地の良い空間を作ることにより、子育ての悩みや高齢者の見守りなど居場所の確保を目標にする。 ・必要に応じ、共通の悩みや楽しみをつなげていくことにより地域のネットワークを広げていく場の提供を目指す。 ・宅配弁当サービスの実施。 ・SDGsの視点から事業を展開し、17のテーマのうち該当するターゲットに近づけるように利用者とともに理解を広げてゆく。		
審査基準： 「公益性・実現性」			
事業の必要性と 目的	(必要性) ・波岡地区（八幡台から畑沢）の高齢化世帯と羽鳥野、真舟、新請西地区の若年層世帯の2極化による問題として、波岡地区では、高齢者が約8,000名。内要介護者が約12%である。また、65歳以上の夫婦のみの世帯は51.7%と市内で一番多い（R2年木更津市資料）。この旧ニュータウンの高齢化と羽鳥野地区の若年層世帯を中心にした八幡台小学校の児童数は848名、真舟小学校は1,000名を超えている。これらは、高齢化による孤立やひとり親家族などの子どもの孤食につながる可能性が高い。 ・これらを少しでも解決していき、社会的資本（ソーシャル・キャピタル）を有効に活用しながら、地域の活性化に結び付けていく（平成26年度厚労省資料「住民組織活動を通じたソーシャル・キャピタル醸成・活用にかかる手引き」）というのが、このコミュニティカフェ事業の必要性である。 (目的) ・いつまでも元気で暮らしていくためには、今日行く所がある。今日やる用事があることが必要と言われています。コミュニティカフェのメリットとしては、 ・散歩のついでにふらっと立ち寄っておしゃべりをする。 ・話を聞く。雑談をする。 ・一緒にお茶を飲む。ご飯を食べる。 ・……などを通して元気に暮らすことができる。 ・話すことで暮らしの知恵などの情報交換ができる。 ・若い人にも子育ての知恵や工夫、悩みの相談や解決の一助になる。 ・各世代間を越えて、交流の場として様々な効果が表れることを期待している。 ・コミュニティカフェという場を利用して物事に関心を持ち、行事に参加していくなどの手助けになり、孤立の解消や、健康で豊かな気持ちに改善され、新しいつながりができる場所の提供になる。 ・一人暮らし、高齢者世帯の小さな困りごとの相談や解決につながる場（他団体への紹介など）。 ・SDGs（国連が呼びかけて環境問題、貧困、ジェンダー、食糧問題など世界が抱えている問題解決を提案）を身近に感じてもらえる企画（例えば、料理、遊びを通して感じる、考える。また、SDGsの視点から事業の達成を目標にする。日本では、政府が2015年より推進本部を、2020年から段階的に学校のSDGsの教育が始まっている。判断基準すべてがSDGsではないが、持続可能な開発目標を持つことは「誰も置き去りにしない社会を作るため」に必要なことである。 ・子どもの居場所として、カフェで多様な世代と交流することで健全な成長の一助となり、見守りが自然とできる場となる。		
審査基準： 「公益性」			

事業名称	コミュニティカフェによる人と人の居場所づくり事業 ～子ども食堂や高齢者の食とコミュニケーション～		
団体名 (構成人数)	NP0法人里のめぐみ(10名)	代表者	金井 珠美
スケジュール	4月 保健所の検査(営業許可)、スタッフの検便、保険加入 ・毎月第2火曜日 ちいき食堂・子ども食堂開催(計12回) ・毎月講習会、講演会、うたカフェ、ワークショップ等のテーマを持ったイベントを開催し、地域の居場所づくりを開催する(計12回) ・コミュニティカフェ めぐみ食堂開催(週3回) ・宅配弁当サービスの実施(週4回)。		
事業の特色	・周辺にはカフェのような場所がなく、気楽に立ち寄る場所もないので、おばあちゃんの家に戻ってきたような雰囲気を作り、ランチやドリンクを提供する(みんなの茶の間)。「おいしいご飯を食べているときに怒る人はいない」をコンセプトに気軽に立ち寄ってもらう。 ・こども食堂は、「ちいき食堂」を目指し誰でも参加でき、子どもに限らず年配や子育て中の方などみんなで会食をし、歓談する。 ・万一に備え利用者は千葉県子ども食堂保険に加入し、スタッフは社会福祉協議会のボランティア活動保険に加入している。また、保健所の営業許可を受け、衛生管理は、検便やエプロン、バンダナ、マスク、手洗いなどに気をつけている。 ・一緒に食べることで新たなコミュニティが生まれ、共通の話題ができる交流の場となり、話し合ったことを実現していける場所。月に1度テーマのある会合、ワークショップなど開催する。 ・宅配弁当サービスの実施。 ・SDGsの視点で事業を考える。		
来年度以降の事業展開予定	・宅配弁当サービスの実施と規模の拡充。 ・利用者の希望するテーマに沿った講演、講習の実施 ・利用者のニーズに合わせたメニューの開発 ・レンタルスペースの提供 ・朝の子ども食堂の開催 ・困りごとの相談、解消		
過去の活動実績	・令和5年度は、木更津市協働のまちづくり活動支援金を受けて、民家を改修しコミュニティカフェをオープンした。開店日は、毎週月、火、木曜日の11時～16時。予約の場合は、上記以外でも開店した。 ・イベントは、「うたカフェ」を2回、「クリスマスリース作り」、「認知症について」の講演などを行った。「地元の大豆で味噌づくり」は3月実施予定。 ・また、昨年7月からは子ども食堂を開催した(令和6年3月で10回開催、12月は2回実施)。 ・読書会や趣味のグループが打ち合わせ会などで予約利用している。 ・NP0法人里のめぐみは、令和4年10月に千葉県により承認された団体です。会員の多くは、子ども食堂の運営経験者で、「木更津波岡こども食堂」で開設から7年、「子ども食堂馬来田がらす」は開設から約2年実施しています。また、会員の中には、調理師、栄養士、食生活改善委員、介護施設の運営に携わるなど多様な人材がいます。		

令和6年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 6

事業名称	コミュニティカフェによる人と人の居場所づくり事業 ～子ども食堂や高齢者の食とコミュニケーション～		
団体名 (構成人数)	NP0法人里のめぐみ(10名)	代表者	金井 珠美

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		原材料費	344,000	・子ども食堂(食材22万円、調味料24,000円) ・駐車場等の整備原材料費65,000円、ペンキ2万円 ・製氷機取付部品15,000円
子ども食堂参加料	50,000	子ども100円、大人300円	備品購入費	200,000	製氷機15万円 冷蔵庫5万円
イベント参加料	60,000	500円×10人/回×12回	報償費	60,000	講師謝礼(5,000円/回×12回)
自己資金	140,000		旅費	12,000	講師交通費(1,000円/回×12回)
			消耗品費	80,000	・トレイ、食器4万円 ・キッチンペーパー、ラップ、ゴミ袋等台所用品4万円
			印刷製本費	30,000	チラシ印刷25,000円 資料印刷5,000円
			保険料	15,000	子ども食堂保険1万円 社協活動保険5,000円
			検査費	9,000	検便(900円×10人)
合計	750,000		合計	750,000	

事業名称	波岡プレイパーク		
団体名 (構成人数)	波岡プレイパーク実行委員会(4名)	代表者	竹内 愛美
事業の内容	波岡地区で常設型のプレイパーク運営を目指し活動しています。 主に候補地である波岡公民館グラウンド（大久保5丁目7番1）、及びその他に於いて屋外での自由な「遊び場」を提供し、得られるさまざまな体験や交流がきっかけとなり、子どもたちの自主性や主体性、社会性やコミュニケーション能力を育みます。 【プレイパークとは】 「自分の責任で自由に遊ぶ」 「何をしてもいい、何もしなくてもいい」 「開催中はいつ来てもいつ帰ってもいいし、お金もかかりません」 「子どもの好奇心を大切にして禁止事項やルールは最低限」 かまどを囲んでパンを焼いたり、水遊びを存分にしたり、高いところに登ったり、土を掘って泥だらけになったり・・・。 そのようなプレイパークの常設化に向けた1dayプレイパークを6回、今年度は開催予定です。 また、プレイパーク利用者で有志を募り、子ども自身が計画、実施、振返りを行う模擬店の出店を地域の夜市、夏祭り、木更津こどもまつり等で行います。		
審査基準： 「公益性・実現性」			
事業の必要性と 目的	昨今の子どもを取り巻く環境は、社会構造の変化により、経済、生活が複雑化し、最近では、ひきこもり、いじめ、DV、虐待などの悲惨なニュースを多く聞きます。また、おとなの働き方も多様化し、子どもの学校、家庭以外の地域社会での第3の居場所が必要となっています。 子どもの成長過程に必要な、五感を刺激する多様な経験、それらの刺激は家の中よりも外のほうが圧倒的に多いものです。自然の中の音や光、風、色、匂い、手触り、暑さ寒さなどを感じることで、子どもの脳は活発に働き、発達していきます。子どもは、広い場所で思い切り体を動かすことで、自分のエネルギーを発散させることができます。また様々な人との交流を通じ、地域での世代を超えた交流の機会を設けることで、社会に大きく羽ばたき、いきいきと生きる子どもの育成が期待できます。また、課題を抱えた子どもに対しては、地域・近所での顔見知りの人間関係の再構築から見守り、見守りから支援へとつながることを期待しています。 これらのことを踏まえ、新たなまちづくりの一環として「自由になれる時間」と「地域での第3の居場所」を作ることで、子どもだけでなく、地域全体の世代、家庭を超えて、顔の見える人間関係のきっかけとなり、子どもたちの健全育成、及び非常時や災害に強い街づくりとしても役立つことが期待できます。		
審査基準： 「公益性」			

事業名称	波岡プレイパーク		
団体名 (構成人数)	波岡プレイパーク実行委員会(4名)	代表者	竹内 愛美
スケジュール	2024年度 ・1dayプレイパークを6回開催 ・毎回終了後、振返りを行うほか、適時、運営会議を実施 ・広報（チラシ配布、掲示SNS）を行う ・他団体（プレイパーク協会等）との連携 ・スタッフの意識向上や他のプレイパークの現状・情報を得るために講師を依頼し勉強会を行います。実施にあたり、市内の他のプレイパークの関係者や関心のある方へ呼びかけ、希望者には参加していただきます。 ・こども関連映画の上映会を開催しこどもの健全育成の啓発、及びプレイパークスタッフの募集を行う 【スケジュール】 2024年 4月 定例会 5月 環境整備及び、広報 6月 dayプレイパーク実施・定例会 7月 1dayプレイパーク実施 8月 八幡台夏祭り模擬店・定例会 9月 1dayプレイパーク実施 10月 上映会開催 11月 1dayプレイパーク実施、木更津こどもまつり模擬店 12月 定例会 2025年 1月 1dayプレイパーク実施 2月 1dayプレイパーク実施・勉強会開催 3月 定例会 ※プレイパーク実施時には社会福祉協議会ボランティア活動行事保険等に参加します。		
事業の特色	・子どもの好奇心を大切にして禁止事項やルールは最低限にすることにより子どもの健全育成に寄与できる。 ・子どもだけでなく、お母さん、お父さん同士も遊ぶということを通して、知り合い、話し合い、つながりあういい関係づくりができる ・運営スタッフとして携わることにより生きがい創出できる。 ・木更津市立小学校の中でも児童数のおおい真舟小学校、八幡台小学校と学区が隣接していることからもおおくのこどもの参加が見込まれる ・赤ちゃんからお年寄りまで、誰でも来ることができます、乳幼児や小学生だけでなく、支援の谷間と言われている中学生や高校生の地域での居場所のひとつとなる。 ・この事業は、こどもに限定しないで親やお年寄りなど地域の方が「どなたでも」自由に参加でき、様々な地域の人をつなげ、みんなでまちをつくっていく力も秘めています。		
来年度以降の事業展開予定	・継続してプレイパークを開催します。 ・近隣地区のプレイパークとのネットワーク構築を図ります。 ・子ども関連の他団体とも情報交換、連携し地域一体となって活動の継続を目指します。 ・自治会や関係機関とも連携し子どもが主体的に運営する横町の企画運営を行います。 ・運営スタッフのスキルアップを目指し、学習会・講演会などの開催や参加を行います。 ・さらに環境整備をすすめ雑談ができる場所を確保し、同世代や世代を越えて雑談を楽しめるようにしていきます。		
過去の活動実績	前年度6回の開催実績 その他、映画上映会、視察会、おんかつ、夜市、夏祭り出店等 実行委員メンバーの背景として 中学高校教員免許保持者・児童養護施設元施設長・羽鳥野自治会長・こども食堂代表・八幡台子ども会ブロック長・青少年相談員メンバーで活動を行っております。		

事業名称	波岡プレイパーク		
団体名 (構成人数)	波岡プレイパーク実行委員会(4名)	代表者	竹内 愛美

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		消耗品費	162,000	事務用品、ブルーシート、ロープ、焚き火用品(台、斧、薪)、工作工具、昔遊び用具、拡声器等
賛助会費	50,000	5000円×10人	燃料費	50,000	刈払機、泥づくり耕運機、発電機、ガソリン(視察研修、外部協力者)、ヒーター等
模擬店収入	230,000		原材料費	150,000	ウッドデッキ、パーゴラ
			保険料	28,000	1,000人×28円
			印刷製本費	50,000	募集チラシ、案内チラシ、報告書、リーフレット等
			備品購入費	200,000	雨水タンク、シンク
			使用料	100,000	上映料、会場費
			報償費	40,000	講師謝礼20,000円×2回
合計	780,000		合計	780,000	

事業名称	オーガニックな薪作り活動による木更津の里山と森の再生事業		
団体名 (構成人数)	Fire Wood People 木更津(6名)	代表者	山本 高行
事業の内容	本事業はボランティア市民とともに、木更津市内の荒れた里山や森の草を刈り大きな倒木を片付け、そして継続的に薪を生産して販売することで、荒廃してしまった里山地域の再生を目指します。また生産される薪の販売等により継続的な売り上げを得られることで事業資金や機材購入資金を確保することができ継続的な事業の運営が可能です。参加者には薪作りで生産された薪の一部が供与され、または売り上げの一部がアクアコイン等で還元され、山のオーナーは費用を掛けずに自身の里山と森を綺麗にすることができます。今年度の活動拠点は市内笹子110番地、市内笹子123番地およびその周辺の山林です。		
審査基準： 「公益性・実現性」			
事業の必要性と 目的	木更津市は都心からとても近い距離にあるにもかかわらず、豊かな自然と美しい田園風景が広がり、子供たちに残していきたい大切な里山を有しています。2019年に千葉県を襲った台風15号、19号により、木更津市内の里山や森が大きな被害を受けたことはあまり知られていません。先人たちが植えた杉やヒノキの巨木は台風の強い風で倒れ、片付けられることなくそのまま放置されています。また、住民の高齢化が進む里山地域は過疎化が顕著で、台風被害により美しい里山や豊かな森は荒れ果ててしまっています。そのためイノシシなどの有害鳥獣は昼夜問わず人家周辺にも出没し、米や野菜等の栽培に大きな被害が出ている状況です。 私たちはボランティア市民と共にオーガニックな薪作り事業を実施し、SNSを活用した情報発信を積極的に行い、これらの問題を多くの市民と共有することで、木更津の里山と森の再生事業を継続的に実施したいと考えています。 本事業は木更津の里山や森を再生したいと思うボランティア市民とともに、薪作り作業を通して木更津の里山地域の再生を目指すことを目的とする市民活動です。それはオーガニックシティーを標榜する木更津に相応しい市民活動で、本事業が荒廃する里山や森を再生し、豊かな里山地域の維持に貢献するとともに、協働作業を通して積極的な市民交流につながるモデルケースになると確信しています。		
審査基準： 「公益性」			
スケジュール	2024年4月～2025年3月、毎月2回木の伐採・清掃活動・薪作り活動を実施 ※木の伐採・清掃活動・薪作り活動は、市内笹子地区の山林を予定 2024年5月 パンフレットの作成、Instagramの新設と運用開始 2024年6月 第1回 薪イベント開催 2024年10月 第2回 薪イベント開催 ※薪イベントは日頃から参加しているボランティア市民だけではなく、普段は参加できない親子や協賛企業の関係者の方などにも集まってもらい、薪割り体験や着火体験などを通して情報交換や市民交流を深めるイベントです。 ※薪の販売は準備ができしだい開始します。		
審査基準： 「実現性」			
事業の特色	私たちの事業で生産される薪は、木更津の里山や森を再生したいと思う市民自らが木の伐採や清掃活動、薪作り作業に参加することで生産されるもので、全国的にも珍しいオンリーワンの商品です。市民活動が薪というエネルギー資源を生み出し、そしてそれらが里山地域の再生と市民交流につながる活動は、木更津らしくオーガニックでSDGsな取り組みと言えます。		
審査基準： 「独創性」			

事業名称	オーガニックな薪作り活動による木更津の里山と森の再生事業		
団体名 (構成人数)	Fire Wood People 木更津(6名)	代表者	山本 高行
来年度以降の 事業展開予定	2025年 市内の拠点をつつにする。 2026年 市内の拠点を4つにする。 2027年 Fire Wood Peopleの活動をさらに拡大		
審査基準： 「発展性・自立性」			
過去の活動実績	2023年10月 木の伐採・清掃活動 2日間(延べ7人) 2023年11月 木の伐採・清掃活動 2日間(延べ7人) 2024年1月 木の伐採・清掃活動 2日間(延べ8人) 2024年2月 木の伐採・清掃活動 2日間(予定) ※すべての活動は、市内笹子地区の山林で実施 毎月1回定例会を実施		

事業名称	オーガニックな薪作り活動による木更津の里山と森の再生事業		
団体名 (構成人数)	Fire Wood People 木更津(6名)	代表者	山本 高行

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり活動支援金	500,000		旅費	10,000	交通費
寄付金・協賛金	100,000		消耗品費	30,000	草刈り機の刃、事務用品
薪の販売代金	100,000		燃料費	30,000	チェーンソー・草刈機の燃料代、潤滑油・オイル
自己資金	50,000		印刷製本費	50,000	チラシ、パンフレット
			通信運搬費	80,000	ホームページ開設、維持費、サーバー代
			保険料	20,000	ボランティア保険
			使用料・賃借料	50,000	車両のレンタル代
			備品購入費	480,000	チェーンソー、草刈機、薪割り機、ポータブル電源、手斧、鋸、ロープ、テント、テーブル
合計	750,000		合計	750,000	

事業名称	木曜日の夜ごはん		
団体名 (構成人数)	木曜日の夜ごはん(12名)	代表者	藤井 佳子
事業の内容	○毎週木曜日17:30~21:00 子どもたちの居場所を開いています。 夕食の提供。 通信や普通科に通う高校生、不登校の中学生、小学生、ボランティアの大学生、専門学生たち。それぞれ宿題をしながら教えあったり、好きなゲーム、音楽を聴いたり、絵を描いたり、お菓子を食べてソファでゆるゆるしたり、おもいおもいに過ごしています。 ○令和5年5月より、同上の木曜日の夜ごはんにて、 月1のおすそわけ弁当「夜・寄るごはん弁当」開催しています。 木曜日の夜ごはんの活動を応援してくれている大人たちと、木更津市社会福祉協議会の就労支援員と支援で関わっている人が一緒に来て、お弁当を詰める作業を手伝ってもらいながら、お弁当を作っています。 社協が運営する学習支援の子どもたちや、みらいラボに訪れている人たち、シングルマザーや地域の買い物難民の方へお弁当の配布を行う。社協の就労支援員たちが、支援で関わっている生活困窮世帯へお弁当の配達を行いたいと申し出をいただき、令和5年10月より、配達開始。 お弁当は毎月60個作っています。 ○「はじまりの音楽祭」(年2回) 木曜日に来ている子供たち自身が、「ありのままの私」を表現する機会です。音楽あり、ダンスあり、絵の展示など。 シンガーソングライターの松本佳奈ちゃんが協力したい！と、ゲストLIVEで参加しています。次回は子供たちと佳奈ちゃんがコラボしてLIVE予定。 ○「木曜日の夜ごはん」活動応援チケット 1000円で3食分のごはん、お弁当になるチケットの販売を行います。 1人でごはんを食べる子どもや、生活に困っている人たちにお弁当を作り続けてきた私たちの活動を、心ある市民が気軽に応援できる仕組みがあるといいとアドバイスをもらい、今年度チャレンジしてみます。 まずは、「はじまりの音楽祭」開催時に呼びかけてみます。 ○コミュニティガーデン 開催場所の「ばった庵」裏庭で、通所で通ってくる利用者の高齢者、障がいがある方たちと共に、畑やハーブの栽培を行っています。 季節の野菜を子どもたちに収穫体験、味わってもらいたいとの思いから、令和5年度より、子どもたちにも裏庭のコミュニティガーデンに関わってもらいます。 ○木曜日の夜ごはんに、ゲスト講師を招きます。(年1回) 多文化共生、多世代交流、言葉ではなく、肌で直に感じとってもらいたい。 ゲスト講師予定：実方裕二さん 重度の脳性麻痺を抱えながら、地域で自立生活を営んでいます。 バンドを組み、音楽活動で発信しています。 介助者に言葉で指示をだしながら、作り出す絶品料理の数々。 東京の世田谷区千歳船橋駅前に「こんにちわ！誰でもスペース発信基地ゆうじ屋」を近年開所し、お年寄りから子どもまで、ごちゃまぜで遊んじゃおうを愛言葉に、さまざまなイベントを企画運営されています。 木曜日の夜ごはんにゲスト講師で参加いただき、子どもたちと共に料理を作ってもらいます。		
審査基準： 「公益性・実現性」			

事業名称	木曜日の夜ごはん		
団体名 (構成人数)	木曜日の夜ごはん(12名)	代表者	藤井 佳子
事業の必要性と 目的	家や学校以外に、子どもが子どもらしく過ごせる居場所を開いています。親や先生以外の大人の存在、学年の異なる子どもたち同士が交わり関わることで、他者への思いやり、自己肯定感、自立心を育むものなのだと、子どもたちの姿を通して、学んできました。 毎週開いてることで、子どもたちの変化や小さなSOSに気づき、フォローすることができます。子どもたち同士、やりとりしながら、勉強を教えあったり、ギターを教えたり、お互いに刺激を受けながら、好きな音楽や趣味の世界を広げあっています。 木曜日に、ばった庵に来ている子どもたちの中には、中学生だったときに社協の学習支援に参加していた子どもたちもいます。地域のなかに子どもたちを受けとめる場が複数あること、その時々で連携していることが大切だと考えています。本当に困っているときは、困っているとなかなか言えないものです。市役所や相談機関に出向いていくことも敷居が高い。ふらっと立ち寄って、お弁当を持ち帰る、「寄るごはん弁当」を通して、顔の見えるつながりと、助けあいの輪を広げていきたいと思っています。 お金を払えば何でも手に入ってしまう時代に、あえて手間ひまをかけながら、コミュニティガーデンで季節の野菜やハーブの収穫、調理、多文化共生、多世代交流する体験を、子どもたちに提供します。		
審査基準： 「公益性」			
スケジュール	○木曜日の夜ごはん 令和6年4月～令和7年3月 毎週木曜日17:30～21:00開催 夕ご飯の提供、誕生日は手作りケーキやパフェでお祝い、庭でバーベキューや花火をしたり、子どもたちのリクエストを聞きながら、手伝ってもらえるところは手伝ってもらいながら、共に居場所を開いています。 ○夜・寄るごはん弁当 同上の木曜日の夜ごはんにて、月1開催 ○はじまりの音楽祭 年2回 春／秋 開催 ○コミュニティガーデン 通常の畑の手入れは、ばった庵の職員と利用者の高齢者、障がいがある方たちと行います。不登校の子どもが日中ばった庵で過ごしているとき、夏休みなど長期休暇で子どもたちが日中ばった庵で過ごしているときなど、畑の手入れを一緒に手伝ってもらいます。 ○木曜日の夜ごはんに、ゲスト講師を招きます。(年1回) 多文化共生、多世代交流、言葉ではなく、肌で直に感じとってもらいたい。 ゲスト講師予定：実方裕二さん ゲストの体調をみながら日程調整を行います。		
審査基準： 「実現性」			
事業の特色	代表の藤井が勤務する通所介護施設で、主にサービス提供時間終了後の施設を子どもたちに開放しています。地域の学習支援やみらいラボと連携しながら、子どもたちが安心して暮らせる地域づくりを目指します。		
審査基準： 「独創性」			

事業名称	木曜日の夜ごはん		
団体名 (構成人数)	木曜日の夜ごはん(12名)	代表者	藤井 佳子
来年度以降の 事業展開予定	閉塞感にあふれている社会のなかで、気軽に相談したり、お茶を飲みながらほっと一息つける場が、子どもにも、大人にも必要だと感じています。 毎週木曜日の夜ごはんや月1のお弁当、コミュニティガーデンを続けながら、地域のなかに、誰でもかけこめる居場所を開き続けていきたいと思っています。 子どもたちの成長とともに、表現する機会を作っていきたいと話しています。ギターの演奏会、合唱、絵の作品展など、「はじまりの音楽祭」を子どもたちと共に企画していきます。		
審査基準： 「発展性・自立性」			
過去の活動実績	2018年頃より、代表の藤井が木更津市内の学習支援にボランティアとして関わるようになる。もともと生活保護のケースワーカーが、担当していた家庭の子どもたちの貧困の連鎖をどうにかしたい、子どもたちの居場所を、勉強をきっかけに作ろうとしてボランティアベースで始まった学習支援。 現在は市から予算が付き、木更津市社会福祉協議会が学習支援の運営を委託されており、元校長や教師が学習支援指導員として配置されるも、「勉強をさせる場所、監視されてみたい、ゆっくり過ごせない、行きたくないetc」当時中学生だった子どもたちが高校生、大学生と成長する中で、子どもたちのリアルな声を聞き、出逢った大人の一人としてつながり続けながら、社協の開く学習支援以外の場所が必要だと感じ、2020年にばった庵が開所してからは、毎週木曜日夜にばった庵を開き、子どもたちを受け止めてきた。 「家に帰ってもごはんがない、親が帰ってこない、一緒に食べてetc」シングルマザー、生活保護の家庭など、子どもたちは置かれた環境の中で生きていて。しんどい時はしんどいとなかなか言えない。学校に行っても行かなくてもいい。まずは、子どもたちが安心して過ごせる場所を開きながら、お腹が満たされる中で、それぞれ勉強したり、思い思いに過ごす時間を大切に、子どもたちの育ちを見守っていききたい。 毎週木曜日に夕ご飯の提供、誕生日は手作りケーキやパフェでお祝いしたり、庭でバーベキューしたり、子どもたちに手伝ってもらえるところは手伝ってもらいながら、共に居場所を開いています。 令和4年に入り、進学相談や、アルバイトをしても学費や生活費がままならないことなどを、子どもたち本人から相談を受ける。木更津市の自立支援課の職員に相談、子どもたちの気持ちに添いながら役所に同行し、家庭の事情や今後のこと、進学については奨学金制度の利用など、市の職員と一緒に子どもたちに必要な支援を考えていきます。 令和5年は、発達障がいと診断を受け、学校を不登校、木更津病院を入退院していた中学生の受診に、親御さんとともに同席し、主治医には薬でコントロールするだけではなく、もっと本人の気持ちの傾聴や発散できる場、もっと生活のなかでできるリハビリと一緒に考えてほしいと訴える。 子供は「はじまりの音楽祭」に参加、気持ちが落ち着いてきたこともあり、減薬しながら、高校は通信に通う準備を、手伝っています。		

事業名称	木曜日の夜ごはん		
団体名 (構成人数)	木曜日の夜ごはん(12名)	代表者	藤井 佳子

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり活動支援金	310,000		原材料費	250,000	木曜日の夜ごはん食材費 (毎週3,000円×4週×12 ヵ月、寄るごはん弁当 8,000円×12ヵ月) コミュニティガーデンで 使用する苗や種代
寄るごはん弁当カ ンパ代	54,000	大人300円×15人× 12ヵ月(子ども無 料)	消耗品費	140,000	使い捨て弁当容器割 りばし持ち帰り袋な ど、ごみ袋、消毒、 除菌液、使い捨て手 袋、洗剤、画材費ほ か
子ども祭り出店売 上	11,000		備品購入費	20,000	炊飯器 1 台
寄付金	90,000		報償費	60,000	講師謝礼20,000円 × 3回
寄付金	10,000		旅費	5,000	講師旅費5,000円 (日帰り) × 1回
合計	475,000		合計	475,000	

事業名称	木更津交流会		
団体名 (構成人数)	大好き木更津！好きだぜ木更津！！(3名)	代表者	石束 貴
事業の内容	当団体はFacebookで木更津市内最大のグループ「大好き木更津！好きだぜ木更津！！」を運営している。2月現在のメンバー数は4,000人を超える。Facebookの掲示板では、木更津市内の生活、飲食、観光、店舗、企業といった情報を、各メンバーが投稿し共通の話題で交流を図っている。 また、当団体では市内のホテルや飲食店を会場にした市民交流会を10年以上実施している。木更津市を中心とした地域団体、市民団体、市民活動家の他、地域の会社員、店舗、企業の経営者、フリーランス人材やスポーツクラブ関係者、地域メディア、放送局、寺院関係者、行政関係者、駅関係者などが100名規模で集まり、交流を実施している。		
審査基準： 「公益性・実現性」			
事業の必要性と目的	木更津交流会は地域住民の交流が主な目的であるが、様々な属性を持つ地域住民が交流することで、個々人がやりたいことに必要な知恵や人脈、その他必要な資源を得やすくすることが狙いである。通常、市民活動は特定の属性の中での交流を主体としており、コミュニティを超えた交流はあまりない。木更津交流会はコミュニティや世代、属性を超えて交流を促し、まちづくりや社会教育の推進を図る公益性の高い取り組みである。本交流会から下記のような取り組みにつながっている実績がある。 ・まちづくり団体の活動の広報、協力人材募集 ・木更津駅スペースの活用した各種企画 ・地域活性化企画（ゲーム、スタンプラリー等）の周知 ・スポーツクラブと市内デザイン会社との提携 ・子ども支援事業に関する広告制作 ・ウクライナ紛争への募金支援 ・能登半島地震への募金支援 これらの活動は4,000人規模のメンバーをもつ当団体にしかできないことである。コロナ渦もあり、これまでは断続的な活動ではあったが、今後は、冬と夏の年2回を定期的に実施できるような体制を整備していきたい。そのうえでより多くの木更津に関わる方々に価値を感じていただけるような交流会に育てていきたいと感じている。		
審査基準： 「公益性」			
スケジュール	【2024年度 第1回交流会】 ・2024.6 準備 ・2024.7 実施 【2024年度 第2回交流会】 ・2024.12 準備 ・2025.1 実施 ※会場は、市内の飲食店・ホテル（舵輪・バイプラザホテル・ワシントンホテル等）を想定		
審査基準： 「実現性」			
事業の特色	木更津交流会でこれまでに実施した取り組みとしては、木更津市内の古い写真を見て回答する「木更津クイズ」、「みんなで踊るやっさいもっさい」、地域のお店を地図上に書き込む「木更津大航海地図」、地域のお店からの協賛品をプレゼントする「じゃんけん大会」や「ビンゴ大会」などを実施した。また参加者が1分程度でスピーチをする自己PRタイムなどを実施してきた。これらはすべて、参加者の交流を促進し、交流会後の生活やビジネスをよりよくするための企画である。 また、交流会により参加者は50～100名程度の実績があるが、飲食店やホテルにとつての集客支援、広告宣伝の側面もあるため、市内経済の活性化に大きく貢献している事業である。		
審査基準： 「独創性」			

事業名称	木更津交流会		
団体名 (構成人数)	大好き木更津！好きだぜ木更津！！(3名)	代表者	石束 貴
来年度以降の 事業展開予定	木更津交流会の効果をより高めていくために、来年度以降は新しい取組みに着手していきたい。これまでは数名の有志・ボランティアによる運営のため、施策や広報活動など、運営でできることに限界があったものの、今後は外部講師による講演会、ストラップや名札等の備品の強化、さらにはより多くの市民、企業に興味を持ってもらうための広報活動を実施していきたい。		
審査基準： 「発展性・自立性」			
過去の活動実績	2022.6 舵輪にて交流会実施（約100名参加） 2023.2 ワシントンホテルにて交流会実施（約60名参加） 2024.1 舵輪にて交流会実施（約80名参加）		

事業名称	木更津交流会		
団体名 (構成人数)	大好き木更津！好きだぜ木更津！！(3名)	代表者	石束 貴

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		使用料・賃借料	300,000	会場使用料、音響・映像機器レンタル
参加料	200,000	1,000円/人(飲食代別)	印刷製本費	200,000	チラシ、ポスター
寄付金	170,000	地域企業より	報償費	300,000	外部講師への謝礼
			旅費	20,000	外部講師の旅費・交通費
			消耗品費	50,000	参加者用名札、ストラップ、アンケート用紙、クリアファイル、掲示用方眼紙等
合計	870,000		合計	870,000	